

日本初! 観覧車窓に省電力



EXPO観覧車(☎ EXPO観覧車

06・6170・3246) は、猛暑の中で吹田市千里万博公園内にある観覧車の窓に省電力、環境負荷を軽減する遮熱塗装を施工した。観覧車窓の遮熱塗装は日本初で、平均温度差でマイナス3・4℃を記録、この夏快適な空間を実現する。



遮熱塗装を
施工

観覧車オオサカホールは、日本一高い全高123m、ゴンドラ台数72基で、今年7月で開業8周年を迎えた。キャビン内は透明アクリル製の窓で、全面シースルーが特色だ。

この夏
快適な空間を
実現

エアコンも完備しているが、外光の影響を受けて夏場はキャビン内が暑くなるのが課題になっていた。省電力で環境負荷を減らそうと窓に遮熱塗装を検討、大阪のチルコート製「HSG無色高透明無機遮熱塗料」を採用した。

アクリル窓に通常の遮熱塗料では、くもるほか、歪みが出るなどの問題があったが、HSG塗料はクリアを維持して施工前とは外の景観が変わらないという。エアコン停止状態で施工済みキャビンと未施工キャビンで比較測定すると、最大でマイナス3・8℃、平均温度差でもマイナス3・4℃を記録した。

キャビン内の快適さに加え、



エアコンの消費電力を減らせ、CO₂削減にもつながることになる。この猛暑の夏、遮熱塗装の効果で、人にも環境にもやさしい観覧車として人気を呼んでいる。